

# 平成29年度第1回射水市協働のまちづくり推進会議 会議録

## 1 開催日時

平成29年10月24日(火)午前10時から午前11時10分

## 2 開催場所

射水市役所3階 302会議室

## 3 出席者

委員 奥 敬一会長、宮城澄男副会長、大坪久美子委員、春日哲男委員、  
堺 勇人委員、瀬山和子委員、高橋清美委員、和田美樹委員  
(8名中、8名出席)

事務局 尾山市民生活部長、島崎市民生活部次長、島田地域振興・文化課長、  
坂井課長補佐、橋本主任、川井主任

## 4 欠席者 なし

## 5 議題及び会議結果

### (1) 開会

尾山市民生活部長挨拶

### (2) 委員の紹介

今回委嘱した委員8名を紹介した。

### (3) 会長選出、副会長指名

会長に奥敬一富山大学芸術文化学部准教授を選出し、副会長に宮城澄男射水市  
地域振興会連合会長を指名した。

### (4) 議題

射水市における市民協働の取組について

射水市における市民協働の取組について、事務局から説明した。

公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について

公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について、事務局から説明した。

その他

### (5) 閉会

## 6 会議資料

資料 1	射水市における市民協働の取組について
資料 2	公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について
参考 1	平成 29 年度射水市地域提案型市民協働事業の手引
参考 2	公募提案型・地域提案型市民協働事業 採択一覧
参考 3	射水市内 N P O 法人一覧
参考 4	射水市協働のまちづくり推進会議設置要綱
参考 5	射水市協働のまちづくり推進会議委員名簿

## 7 会議の経過（要点）

### (1) 射水市における市民協働の取組について

#### 【委員】

職員応援団については、地域で偏りがあるが、どのような基準で登録されているのか。

#### 【事務局】

管理職員については全てであり、一般職員については希望を募っている。

職員応援団制度については、地域振興会からも活用されていないとの意見があるため、今年度、職員に対してアンケートを行った。地域振興会での活動は少ないが、単位自治会や町内会で活動している職員もいれば、何を行えばよいかわからない職員もいることが分かった。各地域振興会でのニーズも異なることから、マッチングも必要であるとアンケート調査から把握した。

#### 【委員】

効果が見られないので、他の自治体を参考にしてもらいたい。

#### 【事務局】

他の自治体でも実施しているが、ボランティアとしてや業務としてなど様々な形態がある。

#### 【委員】

地域振興会を構成している団体に職員がいることはあるが、前端的に網羅されていることはないと感じる。

#### 【事務局】

地域によって活動の温度差がある。アンケート調査の結果については、「制度について理解をしている」が 85%、「理解していない」が 15%であった。その 15%のうち、11ポイント分が「具体的な行動が分からない」であった。次に活動への参画については、「地域振興会の役員として活動している」が 13%、「単位自治会・町内会の役員として...」が 27%、「各種団体の役員として...」が 25%、「役員ではないが積極的に...」が 11%であった。地域振興会としての職員応援団であるが、地域で活動している職員は合計 76%であった。

【委員】

他の自治体のように業務の一環として行うなど突破口を作っていただきたい。職員に負担が掛かるようであれば優遇措置を適用するなど前進してもらいたい。もう一点、まちづくり大学で学んだ方に活躍、参画してもらいたい。事務局ではそのような把握をしているのか。

【事務局】

卒業生に対して、まちづくり大学のOB・OG会の設立も視野に入れた同窓会の運営委員の呼び掛けを行っている。現在、10名の応募を受け付けた。

これについては、活発に活動している方もいるので、行政が介入するよりも自主的に行っていただく。そのきっかけ作りを行っているところである。

職員応援団についても検討していくが、強制ではなく、やりたい職員、できる職員だけとした方が良く考えている。また、地域振興会も社会的背景もあり高齢化が進んでおり、人材不足といったこともある。人材育成については大切に考えていきたい。

地域振興会の設立時にも議論したが、各地域振興会に職員を配置することは理想であるが、職員数も減少しているため人事サイドとしても難しいと考える。また、市民協働事業は地域振興会が主体で実施してもらいたいため、職員が配置されると主体性が薄くなると感じる。

【委員】

市が行っていた事業を地域振興会で実施しているとのことであるが、具体的には。

【事務局】

配布した資料の参考1の8ページに一覧表がある。

【委員】

それぞれの事業に対して下請けのように感じているのか。

【事務局】

設立時にはそのような感覚があったが、市民協働事業が浸透してきて、そのような意見は伺わない。

【委員】

他の自治体でも水道の検針を地域に委託し、検針時に声掛けなどの見守り活動を行っており、良い取組である。射水市は地域振興会の取組に力を入れているが、今年度からNPOの取組にも力を入れているように思う。NPOのポータルサイトについて、どのような広報を行っているのか、また、その反響などはどうか。

【事務局】

NPOのポータルサイトは今年の4月に立ち上げた。現在、市のHPにバナーとしてリンクを貼っている。また、広報7月号にも掲載し周知を図った。反響はまだないが、NPOの方も記事の掲載に意欲的であるので、今後記事が増えれば改めて周知していきたい。

【委員】

現在、何団体あるのか。

【事務局】

市内には34団体のNPOがあるが、掲載の意向等を伺い25団体掲載している。

【委員】

職員応援団はコーディネーターの形が良いと考える。職員が配置されると職員の負担にもなるし、地域振興会の自立性を促すかと考えても不明である。職員応援団については、ニュートラルな立場で、フレキシブルに動きながら、必要な時に必要なものを繋ぐといったコーディネーター的な立ち振る舞いが良い。例えば、1対1の関係ではなく、1対複数の地域の方が広い視点が持てて良いと思う。

【委員】

地域振興会で事務を行っているが、まだ浅いため、今回の資料で地域振興会の設立の経緯など改めて知った。実際、職員で地域に貢献してくれる方はいるが、他に誰がいるかがわからない。

【委員】

協働事業を実施していく中で、各地域において課題があると思う。その課題や解決事例などを共有する場はあるのか。

【事務局】

毎年、地域振興・文化課の職員が各地域振興会を訪問し、課題や意見を伺い、来年度の事業に反映している。

【委員】

地域全体が集まる機会を設けて、その場で様々な意見が出れば前に進んでいくと思うので、ぜひ検討していただきたい。

【委員】

先ほど、委員からコーディネーターの役割といった意見があったが、少し離れた視点から事業を見ていき、その事業の質を上げていただきたい。また、担当の地域だけではなく、複数を担当すれば、それぞれの活動を把握し、内容を共有していくことができる。

【委員】

新聞で地域振興会の活動が掲載されていれば把握できるが、それ以外の活動をディスカッションする機会があれば、様々な活動を知れて今後の活動に発展できる。私は、同じ活動を3年間続けても、4年目は駄目であるといった考え方で事業を展開している。何かをプラスにしていくためにも、そのような活動を周知する機会があれば良い。

【委員】

私は、設立時から関わっており、色んな先進地の視察にも行ってきた。現在の射水市型の協働のスタイルが築かれ、全国でもトップクラスと思っている。また、

地区社協の事務局も取り入れ、互いに協力していく体制もできた。ただ、今後の展開が見えてこないし、地域はますます忙しくなっている。人材不足ということもあり、職員応援団については、管理職ではなく、若い方の地域への参画が必要である。いかに将来のまちづくりに繋げていかなければならないかを考えてもらいたい。人づくりの先進地視察や NPO やボランティアとの交流を活発に行っていかなければいけない。

【事務局】

人材育成は重要であるということは認識している。今年度から実施しているまちづくりプラットホームでは、新採職員に参加してもらった。新採職員の時から地域に参画する意識付けを行っていきたい。また、職員応援団については、採用後 4、5 年の職員に研修の一環として地域振興会へ派遣することも検討している。更に、まちづくり大学の卒業生同士の繋がりや NPO などと連携しながら、地域振興会とのマッチングも行っていきたい。

【委員】

先ほど同じことを行わないといった意見があり、これはすばらしいことと思う。若い人が聞ける場で事業発表会などを開催し、情報や意見が交換できる機会を設けるのが良い。

【委員】

地域での会議の場などで市の職員がいれば、すぐに確認できるし、進行がしやすい。

(2) 公募提案型市民協働事業審査会の委員の選任について

奥会長、大坪委員、春日委員、瀬山委員の 4 名が選任された。

(3) その他

【事務局】

今後のスケジュールについて説明

【委員】

2015 年に公募提案型市民協働事業でいみず祭り実行委員会を立ち上げ、3 年間にいみず祭りを開催することが採択された。若い世代にとっては、公募提案型市民協働事業は事業を行うチャンスがあり、魅力あるものである。若い世代にとってもまちづくりに参加できるきっかけになるので、大切にしてもらいたい。

【奥会長】

まちづくりの現場でも高齢化が進んでいるため、若い方のアイデアも多く取り入れられる環境づくりも大切と考える。